

# 良田平田遺跡

よしだひらた いせき

土器に書かれた  
文字の謎!



## <3区>

3区の西端でみつかった平安時代(約1100年前)の溝には、多くの土器や木製品などが捨てられていました。その中に、墨で文字が書かれた「墨書土器」がありました。須恵器の坏というお茶碗のような土器の底面に、「門西」や「門東家二」と書かれています。これらの文字の意味は、門の西側にある建物で使われた器、門の東側にある家で使われた器ではないかと推測しています。「二」は家もしくは器の数を表わしているのかもしれませんが、当時、文字を書いたり読んだりできるのは、役人や貴族、僧侶などに限られるため、そうした人々がこの場所にいたと考えられます。

調査区内では建物の柱穴がたくさんみついていることから、土器に書かれているような門や家があったのではないかと期待しています。



土器に書かれている  
“門”や“家”は、  
どこにあるんだ?

## <2区>

室町時代(約600年前)の田んぼのさらに下層から、田んぼと、南から北へ流れる水路が姿を現しました。

水路の中から土器などの遺物が出土していないため時期はわかりませんが、室町時代よりも古い田んぼの用排水路と考えられます。田んぼの畦は、室町時代の耕作によって失われていたが、水路に沿った位置に畦が築かれていたのでしょう。



# 鳥取西道路の遺跡を掘る!

第27号 2011年7月22日

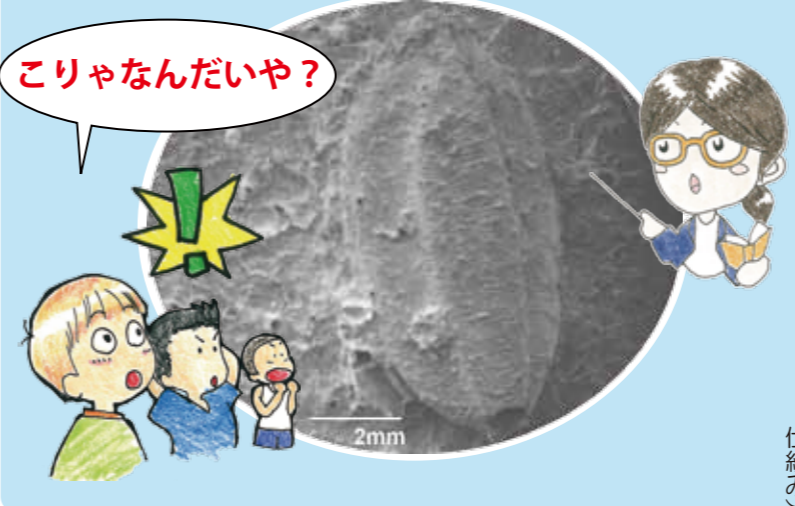
発掘調査で一番よくみつける遺物は土器ですが、土器の表面をよくみると、大きさが数ミリほどの穴が空いていることがあります。この穴は一体何なのでしょう?実は、調べてみると意外なことがわかってくるのです。



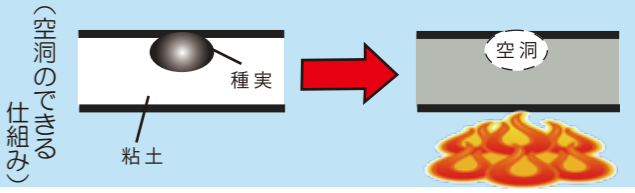
## 土器に残る謎の空洞



固まった樹脂を電子顕微鏡でみてみると...



答えはコ×です。下図のように、土器をつくる時に粘土の中にまぎれこんだ植物の種実が、土器を焼くと燃えて、そこが空洞になります。その空洞に樹脂を流し込み、型をとって電子顕微鏡で観察すると、種実の種類がわかります。こんな小さな穴でも、昔の人たちが利用していた植物を知る上で、大きな手がかりとなります。



(財) 鳥取県教育文化財団  
調査室  
美和調査事務所  
〒680-1133  
鳥取市源太12番地  
(旧鳥取湖陵高校美和分校内)  
TEL : 0857-51-7553  
FAX : 0857-51-7550  
メールアドレス :  
matsuik@pref.tottori.jp

**発掘通信**

いよいよ夏本番!! 今年梅雨の頃から気温が高いので、かなりの猛暑となりそうですが、炎天下の中、作業を頑張って進めています。各現場では、連日の暑さも吹き飛ばす発見が相次いでいます。いち早くホームページや通信でお知らせしますのでお楽しみに!!

鳥取県教育文化財団 調査室

検索

# 高住牛輪谷遺跡

たかすみ うしわだに いせき

古代の田んぼ  
発見!

古代(約1200～1300年前)の土器を含む黒っぽい土を掘り下げていると、田んぼの畦(あぜ)のあとができました。



白い線が引いてある部分が田んぼの畦のあとです

周辺では人の足跡もみついています。足跡は白い砂で埋まっており、近くには牛の足跡もありました。はだしで田んぼに入り、牛をつかって耕していた光景が浮かびます。

そのうちのひとつ、私の足を比べてみました。古代の人の足の大きさも、現代とあまり変わらないようです。



比べている足の大きさは24cm。足跡は26cmほどあるようです。



高住牛輪谷遺跡  
高住井手添遺跡

国土地理院1/25000地形図「鳥取南部」より

# 高住井手添遺跡

たかすみ いでぞえ いせき

縄文時代の  
手工芸!

縄文時代晩期(約3000年前)に埋もれたと考えられる川の跡を調査中です。川を埋める砂の中からは、たくさんの木のほかに、トチやクルミ、ドングリなどの木の实がそのままの形でみついています。地下水を含んだ砂が、植物質の遺物をよく保存してくれたのでしょう。

さらに驚いたことに、砂の中には植物のツルで編まれたカゴが当時のままの姿で埋もれていました。縦方向のツルを、横方向の2本のツルで挟みこむように編んでおり、カゴの口の部分は、ほつれないよう丁寧に仕上げています。同様のカゴは6点みつっており、さらに増える可能性もあります。



縄文時代のカゴは、鳥取市内の布勢遺跡、桂見遺跡などで出土例があります。両遺跡とも、湖山池の南東岸に位置し、高住井手添遺跡から東に2kmほどの距離にあります。

湖山池に面した低湿地に位置する遺跡は、まるでタイムカプセル。数千年の時を超えて、縄文時代の暮らしを鮮やかに伝えてくれます。

# 高住平田遺跡

たかすみ ひらた いせき

くりかえし  
つくられた溝!

調査を始めて2カ月あまり。現在は、先月お知らせした暗渠<sup>あんきょ</sup>や江戸～昭和時代に使われたと考えられる農業用水路の下を掘り下げています。

すると、幅が4～5mほどある、室町時代(約500年前)の溝がみつかりました。

今回みつかった溝は、江戸～昭和時代のものとほぼ重なる場所にありますので、おそらく同じように田んぼの水路だったと思われます。

同じ場所にくりかえしつくられていることから、高住の人々にとって、ここに水路があることは、農業を行う上で重要なことだったのでしょう。



高住平田遺跡

国土地理院1/25000地形図「鳥取南部」より



溝を南からみた写真(青く塗っている部分) 黒い点線は江戸～昭和時代の水路があったところです。



溝の中からみつかった青磁 約500年前に中国でつくられたものです。



溝の真ん中で、人の拳ぐらいの大きさの石がたくさんみつかりました。 どうして、ここにだけ石が集中しているのでしょうか?今後、調査を進めていきます。